

創刊120周年

幼児の教育

2021

春

— since 1901 —

子ども学の源流を次世代につなぐ

第
二
号

第
三
〇
巻



ほら。

面白いよ。

こんなふうに重ねたよ。

写真

子どもの情景 1

目次 まと

創刊120年を記念して 2

特集

創刊120周年記念

『幼児の教育』120年。

未来に何をつなぐのか 1

保育史と出会った奇跡

―『幼児の教育』のバックナンバーを

検索したら驚いた 4

《座談会 2021》

浜口順子・久保健太・宮里暁美・阿部祐美子

5

実践

保育をつなぐ

～お茶の水女子大学附属幼稚園からの発信～

Vol.9

附属幼稚園と大学 ― 研究・教育の

パートナーとして ―

小玉亮子

20

連載

「育ての心」で語りあう

～動画を囲んだDX時代のカンファレンス～

Vol.1

子どもに任せて「場所」になる

鈴木秀弘・池永憲彦・久保健太

26

視点

からだの対話とからだ育て

山上亮

32

初めての海外生活の地ミャンマーの教育環境

芳賀啓介

36

A児の表したもの

～表現の指導について考える～

杉浦真紀子

40



目次

表紙の図柄は、1901年に創刊された弊誌第1号の表紙図柄（荒木十畝・画）をデザイン化したものです。

視点

大人が読みたい絵本

― かかり合いの知恵を求めて

菊地知子

44

文化

鎌倉おもちゃ屋物語 その9

黒須和清

49

探究

言語景観からみる子どもの言葉の発達を
促す教育環境

― フィンランドの幼児教育現場からの示唆 ―

矢田明恵

61

子ども学の心算

ナーサリーこぼれ話

イベント・メディア情報

読者投稿・編集後記 他

62

まど 創刊120年を記念して

『幼児の教育』創刊120年を記念して、この春号から表紙を一新した。1901年に『婦人と子ども』という誌名で刊行された最初の号の表紙（本誌P5参照）を飾ったデザインをアレンジしたものだ。画家・荒木十畝（当時、東京女子高等師範学校の美術教師）の作による花模様の図柄は今も美しく、時間の流れを温かく感じさせてくれる。

120年前の流行語を調べてみた。「20世紀」社会主義―そして「鳩ほっぽ」―。エレン・ケイの『児童の世紀』発表翌年の1901年、「鳩ほっぽ」が社会にどんなインパクトを与えたのだろう。作曲は滝廉太郎。作詞家の東くめは『婦人と子ども』の創刊者、東基吉の妻である。小難しい雅楽調ではなく、子どもが口ずさみやすい新しい歌詞を東は紡いだ。その60年後、つまり60年前（1961年）の流行語はというと、「地球は青かった」と並んで「巨人・大鵬・卵焼き」「現代っ子」―。「現代っ子」は教育評論家の阿部進（1933-2017）の造語だという。受験競争にもまれ、きょうだいの多かった時代の子どものたちの悩みに「全国どこも電話相談室」で答え、共感を得ていた。

「子ども学の源流を次世代につなぐ」は引き続き表紙に掲げつつ、いざ2021年目へ。（浜口）

◇ナーサリーこぼれ話◇

「新しい自分になる」

年度末までひと月余りとなった頃、事務スペースにいる私（主任）のところに「お願いしま〜す」と2歳児担任が手をつないでKを連れてくる。「どうしましたか？」と聞くと、「こっちの爪がここに当たって痛い」とK。なるほど、足の親指の爪が四角く伸びて、人差し指の肉に当たって痛いらしい。

「切りましょうか？」「うん」「パッチンで切るほう？ チョキンで切るほう？」「パッチン」「わかりました」。あえてうやうやく答えて私は保健用品の引き出しからニッパー式の（普通の）爪切りを取り出し、「これですね。床に座りますか？ お膝にしますか？」と問う。「お膝」と迷いなくKは言い、向こう向きに膝に乗り、神妙に足元を見ている。準備は万端。いつの間にかすっかり大きくなったKの右横から体をよじってのぞき込むようにしないと、Kを膝に抱いた私にはKの右足の爪先が見えない。どうにかこうにか爪のとがりを切り終える。Kは右側からバツと振り返り、私と目を見合わせて「へへっ」と笑い、立ち上がってピュンと保育室に戻っていった。

その日からKは、何度となく私に手や足の爪を切ってもらいに来るようになる。そしてそのたび、膝に座って右や左から私を振り返って、まだまだ幼いままのおどけた笑顔を見せては“持ち場”に戻っていく。2度目3度目こそ、「え？ また？」と思ったが、その後はもう、「はいはい、どうぞどうぞ。いらっしゃいませ」状態だ。私も担任も、よくもそう切ってほしいところを見つけるものだと思ったり感心したりしていたが、その後、何がどう展開して子どもたち大人たちがどんなふうだったか、詳細を振り返ることもないくらいにバタバタと、3月は終わっていった。

爪は、間違いなく自分の身体に属する（というか身体を構成する）ものであるが、他の細胞各所と異なり、ある程度の“意志”をもって「切り離す」（あるいは「切ってもらう」という、とてもよくわかる形で、本体（自分の身体そのもの）から離されていく。そうして、切り離れた分だけ本体は新しい自分になっていく。



ちょっぴり怖がりのKは、優しさや真っすぐさはそのままに、昨日までの古い自分と少しだけさよならをして、新しい自分になって4月からの生活を始めたのだと思う。

（主任保育士K）



編集後記

春号の座談会は、『幼児の教育』の120年を振り返り語りあうというもので、私も参加しました。その中で、私は保育者として歩き始めてからずっと『幼児の教育』に支えられてきたということを再確認しました。私は大学卒業後すぐに保育の現場に入りました。子どもと過ごす日々は楽しく喜びの多いものでしたが、同時に悩みも多くありました。目の前の子どもの姿が見えなくなり保育に行き詰まるというスランプに襲われたときに『幼児の教育』に手が伸びました。ページを開くと津守先生の文章が目に入り、読み進めると、自分の中の気負いのようなものがずっと消えて、もう一度子どもに向きあおう！と思ったことを覚えています。

私のような保育者が日本中にたくさんいるのではないのでしょうか。『幼児の教育』は迷える保育者にとって必要な雑誌です。これからも保育者や子育て中の方々へ向けての発信を重ねていきたいと思います。

2021年春号が皆様のお手元に届く頃、日本、そして世界はどうなっているのでしょうか。新型コロナウイルス感染の拡大はなかなか止まりませんが、感染対策として消毒や換気の徹底、3密を避ける行動など、取るべき行動が明確になる中、懸命の努力が重ねられています。保育の場でも子どもたちと一緒に「私たちはできる！」「こうしていれば大丈夫！」と言葉に出しながら日々を過ごしています。心の元気を保ちながら一歩ずつの日々です。(MA)

次号予告 幼児の教育夏号 2021年7月刊行予定

創刊120周年。歴史を生かし「今」の保育をどうするか。

◇ 『幼児の教育』120年。未来に何をつなぐのか 2

座談会 子どもにとっておもちゃとは？

丸山素直氏・花牟禮瑠実子氏・柳 奏子氏・私市和子氏 ほか

◇ 承認不安時代の子育て 山竹伸二氏

◇ 海外の保育

タイ、ブータンでの生活経験から 太田孝輔氏

※タイトル内容が変更になる場合もあります。

幼児の教育 春号 第120巻 第2号

令和3年4月1日発行

編集発行人／浜口順子

編集担当／田中恭子

発行所／お茶の水女子大学

『幼児の教育』編集委員会

〒112-8610

東京都文京区大塚2-1-1

お茶の水女子大学

浜口順子研究室内

youji-no-kyouiku@cc.ocha.ac.jp

発売所／株式会社フレーベル館

電話：03-5395-6604 (編集)

振替／00190-2-19640

印刷所／図書印刷株式会社

定価／本体880円+税

◎お茶の水女子大学『幼児の教育』編集委員会

2021 Printed in Japan 無断転載禁止

落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。

編集委員／上坂元絵里

菊地知子

久保健太

松島のり子

宮里咲美

お茶大3園合同研究会

(附属幼稚園、

いずみナーサリー、

文京区立お茶大こども園)

編集協力／フレーベル館

第120巻第1号(冬号)の発行日に間違いがありましたので訂正します。

(誤) 令和3年4月1日→(正) 令和3年1月1日

●ご購入のお問い合わせは、フレーベル館までお願いします。03-5395-6613 (営業) ●

